

健康 ぷらざ

副鼻腔炎

—ネバネバの鼻みずが出たら要注意—

国際医療福祉大学医学部耳鼻咽喉科学 教授(代表) 岡野 光博

企画：
日本医師会

No. 598

副鼻腔炎とは

副鼻腔炎とは、鼻腔の周りにある副鼻腔という空洞に炎症が起こり、粘膜が腫れたり、粘液がたまる病気です(図)。多くの場合は風邪を引いた後に起こります。炎症が慢性化すると、鼻茸というゼリー状のポリープができることがあります。慢性化した副鼻腔炎として、従来型の蓄膿症タイプに加えて、好酸球性副鼻腔炎というタイプが増加しています(表)。

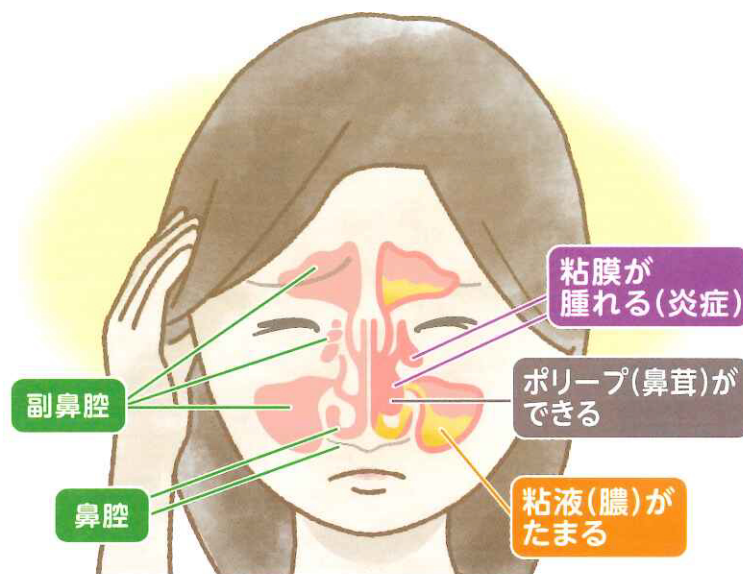


図 鼻の構造と副鼻腔炎

表 慢性副鼻腔炎の2つのタイプ

	従来型の副鼻腔炎(蓄膿症)	好酸球性副鼻腔炎
なりやすい年齢	すべての年代	20歳以降
主な症状	鼻づまり、鼻みず、後鼻漏	鼻づまり、匂いの低下
炎症が起きやすい場所	ほおの奥	鼻の根元や目元の奥
鼻みずの性状	膿っぽい	黄色くネバネバ
鼻茸	片側または両側 単発	両側 多発 匂いを感知する場所(嗅裂)に できやすい
合併しやすい病気	気管支炎	気管支喘息 解熱鎮痛薬のアレルギー

(Fujieda S, et al. Allergology International 2019; 68, 403-412 を参考に作表)

主な症状

主な症状として、頭痛や顔の痛み、鼻づまり、鼻みず、後鼻漏(鼻みずがのどに落ちてくる症状)、匂いの低下などがあります。急性の場合は発熱を伴うこともあります。疲れ、だるさ、睡眠障害、集中力の低下なども見られ、勉強や仕事にも影響が出ます。アレルギー性鼻炎・花粉症と症状が似ていますが、副鼻腔炎では、くしゃみが出ることは少ないです。

治療

治療は、副鼻腔炎のタイプによりますが、いずれも生理食塩水などによる鼻の洗浄が大切です。急性期であれば抗菌薬やステロイドなどを服用します。慢性期で、従来型の蓄膿症タイプであればマクロライド系の抗菌薬を、好酸球性副鼻腔炎であれば抗炎症薬などを、それぞれ服用します。鼻みずを吸引して鼻の通りを良くする処置や、薬液を霧状にして鼻から吸入する治療も有効です。これらの治療で良くならない場合は、手術で副鼻腔を大きく開放して空気の通りを良くします。それでも良くならないければ、生物学的製剤という新しい薬の使用を検討します。

鼻の症状が長引いて気になる時は、耳鼻咽喉科を受診して、適切な診断と治療を受けましょう。

日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



健康ぷらざ
バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用いただけます。